



## ○ 台風Ⅱ

前号で、学生たちには保育士の先生になったつもりで台風対策について考えてほしいと記述しました。今回はその関連で私が経験したことをつれづれに紹介します。今後の危険予測・回避、危機管理に役立ててもらえればと思います。

その1 フリーター時代、自転車で各地を旅行していました。年に1回は北海道に1か月近く出向きました。その時のことです。東北地方を通っていくには時間と経費的に難しかったので、東京からフェリーで行きました。季節は夏の終り頃です。出発日はあらかじめ決定しており、二泊三日後のユースホテル（今は数が少なくなってさみしいです。）も予約していました。その状況で船に乗り込みましたが、台風が来ていました。船は東北沖を北上しますが、我々を追いかけるように台風も付いてきて、ほぼ同時に釧路に上陸しました。経験者の方は分かると思いますが、自転車にとっての最大の敵・味方は風です。阿寒にある宿に行かなければならないので仕方なくペダルをこぎだしました。阿寒への“山登り”ですが、後ろから風が助けてくれます。ものすごく快適にあつという間に峠に着きました。「楽勝！」と思ったのですが、そこから進路変更です。ものすごい横風に行く手を阻まれます。ふらついたらトラックに轢かれます。ときどき降りて押しながら必死の思いで宿をめざしていたら、突然ものすごい音が左前方から聞こえました。一瞬雷と思ったのですが、見ると大木（太さ2mくらい）が風で折れてこちらに倒れつつあります。スローモーションのような情景を見ながらよけようとした直後目の前に倒れました。「危機一髪というのはまさにこのことをいうのだな、友達への土産話ができたぞ。」というくらい倒れている2～3秒の間は怖くありませんでした。しかしそのあと、まわりで木が折れる音を聞くたびにじわじわと恐怖感が強くなりました。若いときは無茶や無理をして危険な目に会うことも多いですね。経験が少ないからでしょう。でも命を落としてはなりません。この“事件”では、あと0.5秒違っていたらどうなっていたか分かりません。皆さんは私のこの事件から何を学ばれますか？

その2 休校の決断 前号で給食と休校のことを少し記述しました。給食物資キャンセルの期限がありますので、それに間に合うような決断が必要ですね。給食センターなど千食を超えるようなところではより早い対応が必須です。また、休校となれば家庭での昼食づくりにも影響します。比較的小さな給食室では融通が利く場合もあります。第三者からすれば、「決定が早すぎるのでは？」という報道の中にもいろいろな事情があるとお判りでしょう。その他の要素：台風の被害が“いつ最も大きいか”ということにも迷わされます。登校時に当たれば決断は割とスムーズです。しかし、昼とか夕方とかになると迷います。登校させたけれど帰れないという場合が想定されます。また、小・中・高校などの違いでも変わります。成長の度合い（体の大きさ・自己判断力など）により危険度は変わります。通ってくる子どもの通学範囲の大小もあります。校区が見渡せるような小規模な学校であれば、決断は一つで済みます。高校などでは県内どれくらい遠くから通学しているのでしょうか。中には新幹線通学者もいるようです。連絡内容が複数のパターンになってしまいますね。休校の判断について記述しましたが、企業や商店を営んでいる方々は違う部分の苦勞も多いことと思います。

